

|    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 主題 | 事故半減に繋がったリスクマネジメント              |
| 副題 | 業務を分析することによって明確化したリスクに対してのアプローチ |

|           |                |
|-----------|----------------|
| リスクマネジメント | 優先順位、人員配置、是正処置 |
|-----------|----------------|

|      |      |     |                  |
|------|------|-----|------------------|
| 研究期間 | 12ヶ月 | 事業所 | 特別養護老人ホーム 日の出ホーム |
|------|------|-----|------------------|

|                        |         |
|------------------------|---------|
| 発表者：発表者：鈴木 成二（すずき せいじ） | アドバイザー： |
|------------------------|---------|

|                               |
|-------------------------------|
| 共同研究者：大高陽介、永井彬矢、丹治健介、師真悟、塩畑繁男 |
|-------------------------------|

|     |              |     |                            |
|-----|--------------|-----|----------------------------|
| 電 話 | 042-597-2021 | メール | Seiji-Suzuki@h-sunrise.com |
| FAX | 042-597-1973 | URL | http://www.h-sunrise.com   |

|                  |                                                                                                                                                                              |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 今回発表の事業所やサービスの紹介 | 介護老人福祉施設200床、併設の在宅サービスセンターひので理想郷の園定員40名、デイサービスセンターサンライズ平井っ原定員15名、小規模多機能型居宅介護、ショートステイ15床、居宅介護支援事業所、訪問介護員養成研修事業、50床のユニット型特養サンライズ大泉の8事業を運営。法人理念「安心と充実の人生を一緒に」を掲げ、サービスの提供を行っている。 |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

### 《1. 研究前の状況と課題》

#### <状況>

日の出ホームではH23年度より、全職員が稼働率の安定を意識したケアを行っている。

その成果としてSOR（H23年度の研究で、稼働率の安定をSORと呼ぶ事とした）を達成する事ができた。しかし介護事故（外部の病院へ受診する必要のある重大事故）及び、インシデント（外部への受診の必要の無い軽微な事故）は増加傾向にあった。

#### <課題>

入居者の要介護度の重度化、利用ニーズの多様化が進む事により、更なるリスクや介護事故の増大が予測される。

人員と時間が限られている中で、確実性のあるリスクマネジメントを行っていく事が必要とされる。

### 《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

#### <目標>

介護事故・インシデントの減少とその為の環境づくり

- ①入居者のリスクの明確化と共有。
- ②業務内容を見直す事によって、リスクを回避して介護事故を減少させる。

#### <期待する成果>

介護事故を発生させないケアの実現

- ①入居者の身体・精神的要因から予測できるリスクの回避

時間帯によって発生するリスクを分析し、情報を具体的に共有する事でリスクの回避に繋げる。

- ②業務内容の見直しによるリスクの回避

職員の1日の業務内容を分析し、リスクが高い時間を明確化し、業務内容の見直しを行う。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

#### ①時間帯分析による先を見据えたケア

次の勤務時間に予想される転倒ハイリスク者の優先順を勤務交替時に申し送る。

また介助方法や注意点について周知を行う事で、経験年数に左右されない一定のケアを行えるようにした。

#### ②業務分析によるケアの見直し

1日の業務内容を分析する事で、複数同時作業を割り出しその時間帯のリスクやインシデントの発生予測と対策を考える。

### 《4. 取り組みの結果と考察》

#### ＜結果＞

事故件数がH23年度24件から、H24年度は12件に半減した。

特に介助中に起こってしまった事故がH23年度10件に対してH24年度は4件に減少した。

#### ＜考察＞

転倒ハイリスク者のタイムリーな情報を共有する事で、各時間帯で予測されるリスクを把握する事ができた。

また業務分析を行なった結果、転倒・転落のリスクが高い時間帯を把握する事ができた。

これらを元に業務内容の調整を行う事で事故の減少に繋げる事ができた。

### 《5. まとめ、結論》

#### ＜結論＞

H24年度から新たに業務分析を行う事で、各時間帯に予想されるリスクを把握し、より適切なケアを行う事ができた。

よって、介護事故を半減する事ができた。

#### ＜今後の課題＞

H24年度までは実際に起こったインシデントや事故を元にリスクマネジメントを行う「是正処置（事故後の対策）」に力を入れていた。

H25年度からは「ヒヤリハットを制するものはリスクを制す」を合言葉にインシデントが起こる前のヒヤリハットに着目し、インシデントや事故を減少させるため、更なる「予防処置」の取り組みをしていく。

### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しない事、それにより不利益を被る事はない事を説明し、回答をもって同意を得た事とした。

### 《7. 提案と発信》

今回は業務分析を行いケアの見直しを行った結果、事故の減少に繋げる事ができました。

日々固定化されている業務を分析する事で、新しい視点からのリスクマネジメントができるのではないのでしょうか。

#### 【メモ欄】